

乳児の縦断的発育値

—10年間の比較と厚生省値との比較—

千葉 良(仙台赤十字病院小児科)

厚生省は10年毎に横断的発育値を調査して発表しているが、同一個人の発育を追跡した縦断的発育値は殆んどみられない。そこで同一個人を追跡した縦断的発育値は、横断的発育値の厚生省値と差があるか検討した。また、母乳運動、離乳法の再検討、社会生活の向上、社会の高令化など子育ての環境や条件が著しく変ったこの10年間で、略同一の育児指導を毎月定期的に受けている乳児では、その発育に変化がみられたか検討した。

対象

昭和48年度仙台赤十字病院値(日赤値)は昭和47年1月から昭和48年12月までに出生した乳児で、12カ月児までに育児相談を9回以上受診した215例(男116例、女99例)である。昭和58年度日赤値は昭和57年4月から昭和59年3月までに出生した乳児で、12カ月児までに育児相談を9回以上受診した205例(男105例、女100例)である。

結果

1. 体重の発育値について(表1、図1)

日赤値の10年間の比較では男女とも殆んど差がない。58年度日赤値で全例と母乳栄養例を比較しても男女とも母乳栄養例が下回ることにはなかった。

厚生省値との比較では45年値と比較すれば、日赤値は乳児期後半では上回っているが、55年値ではその差が殆んどみられなくなった。

2. 身長発育値について(表1、図1)

日赤値の10年間の比較では、男では殆んど差は認められないが、女では58年度値がやや下回った。58年度日赤値で全例と母乳栄養例を比較しても男女とも殆んど差は認められなかった。厚生省値との比較では日赤値は48年度値および58年度値ともに下回っていた。これは身長計測では、測定者による差および同一測定者でも測定毎に多少の差がみられるが、それらの差によるものと推測される。

3. 発達について(表2)

10年間の間隔をおいて、同じ方法でチェックした項目について、全例の50%と90%が可能になった月令を表2に示す。パパ、ママのような単語を2~3語話すだけに大きな差がみられるが、これは48年度日赤値に喃語も含まれていたためであろう。厚生省値との比較では、首すわり、ねがえり、つかまり立ち、はいはいについては日赤値が遅いが、ひとりすわりは50%可能では遅いが90%可能で追いついている。ひとり歩きは50%可能は略同じであるが90%可能は日赤値が早かった。これらの差は、厚生省値は9月の調査であり、日赤値は

完了の時期が早まった傾向がみられる。厚生省値との比較では体重の発育値には殆んど差は認めら

れなかったが、身長が発育値は日赤値がやや下回った。

表2. 発達の比較

項目	50%可能			90%可能		
	48年度値	58年度値	厚生省値	48年度値	58年度値	厚生省値
あやすと笑う	2-5	2-2		3-0	2-24	
首すわり	3-17	3-25	3-6	4-15	4-15	4-6
手で握む	5-5	5-0		6-12	5-27	
ねがえり	6-8	6-10	4-15	8-0	7-20	6-3
ひとりすわり	6-24	6-26	6-15	8-3	7-27	8-3
歯が生える	7-11	7-15		-	9-17	
つかまり立ち	-	9-15	8-10	-	10-22	9-25
高ばい	-	9-17	8-10	-	11-0	10-10
伝い歩き	-	10-6		12-4	11-26	
ひとり歩き	11-28	12-0	12-5	12-15	12-17	14-15
ことば	10-27	12-2		12-7	13-0	

図1. 昭和48年日赤値、昭和58年日赤値と昭和55年厚生省値の比較

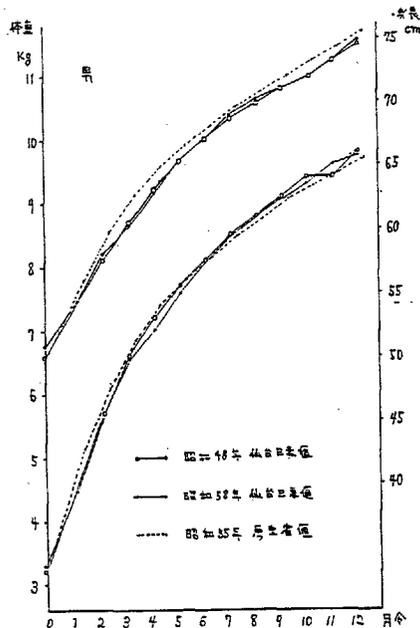


表3. 月令と栄養別の割合

月令	48年度日赤値 (215例)					58年度日赤値 (205例)					58年度家事母 (150例)					58年度職業母 (48例)				
	人	母	混	乳	離乳完了	人	母	混	乳	離乳完了	人	母	混	乳	離乳完了	人	母	混	乳	離乳完了
1	人	%	%	%	%	人	%	%	%	%	人	%	%	%	%	人	%	%	%	%
2	200	45	30	25	0	191	59	32	9	0	143	69	24	7	0	42	26	62	12	0
3	206	39	29	32	0	192	56	27	17	0	144	67	21	12	0	41	22	49	29	0
4	191	37	21	42	0	189	52	25	23	0	142	63	20	17	0	40	17	45	38	0
5	185	36	19	45	0	192	51	23	26	0	144	60	18	22	0	42	22	40	38	0
6	188	36	19	45	0	186	52	17	31	0	140	61	15	24	0	40	25	22	53	0
7	180	37	12	51	0	184	52	11	37	0	137	61	10	29	0	40	28	14	58	0
8	183	37	8	55	0	184	52	9	39	0	140	61	7	32	0	38	24	15	61	0
9	181	36	3	59	2	178	51	4	38	7	133	62	1	31	6	40	23	10	57	10
10	168	32	5	53	10	175	42	1	27	30	115	54	3	17	26	34	29	0	21	50
11	162	28	1	43	28	171	30	0	14	56	132	34	0	13	53	35	17	0	9	74
12	180	-	-	-	-	171	11	0	3	86	120	12	0	3	85	46	9	0	2	89

冬期の衣服による運動がしにくい季節を含む3年間にわたる調査であるので季節変動が平均化されているためであろう。

4. 昭和58年度のことばについて

12カ月児(171例)で語数が1こ28名、2こ41名、3こ26名、4こ以上17名で、2こ以上が84名49%であった。1位は食物(5種類)51%(マンマ47%)、2位父(8種類)30%(パパ27%)、3位母(11種類)22%(ママ16%)、4位犬(2種類)19%(ワンワン18%)、5位自動車(2種類)11%(ブーブー11%)であった。

5. 月令と栄養別の割合について(表3)

58年度日赤値は48年度日赤値に比べ人工栄養が減少し、母乳栄養が増加した、また離乳完了の時期

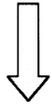
が早まった。58年度日赤値で家事に専念する母(家事母)と職業についている母(職業母)を比較すると、1カ月児では家事母の母乳栄養が多いが母乳栄養と混合栄養の和では差がない。3カ月児以降では人工栄養が職業母に多くなる。6カ月児になると職業母で混合栄養が急減し、人工栄養が急増する。10カ月児になると職業母で離乳完了する児が家事母に比べ多くなる。

結論

ここ10年間子育ての環境や条件の変化があったが、同一の育児指導を定期的に受けている乳児の身体発育値および発達は10年間で差は認められなかった、また栄養方法では母乳栄養がふえ、離乳

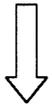
表1. 身体発育値(仙台赤十字病院値)

月令	男 子									女 子								
	48年度値全例 (116例)			58年度値全例 (105例)			58年度値母乳例 (38例)			48年度値全例 (99例)			58年度値全例 (100例)			58年度値母乳例 (50例)		
	人員 人	身長 cm	体重 Kg	人員 人	身長 cm	体重 Kg	人員 人	身長 cm	体重 Kg	人員 人	身長 cm	体重 Kg	人員 人	身長 cm	体重 Kg	人員 人	身長 cm	体重 Kg
出生時	116	50.1	3.2	105	50.8	3.30	38	50.8	3.34	99	49.8	3.2	100	50.0	3.12	50	50.1	3.15
1	—	—	—	95	54.1	4.49	35	54.5	4.62	—	—	—	84	52.8	4.13	45	52.9	4.18
2	107	57.5	5.7	102	57.9	5.71	37	58.1	5.91	93	56.8	5.4	89	56.4	5.30	49	56.4	5.39
3	110	60.5	6.6	98	60.8	6.48	36	61.1	6.66	96	59.5	6.1	94	59.1	6.02	48	59.1	6.15
4	99	63.1	7.2	96	62.9	6.99	33	63.0	6.92	92	62.2	6.7	93	61.3	6.63	46	61.1	6.80
5	99	65.2	7.7	96	65.2	7.59	35	65.1	7.69	86	64.2	7.2	96	63.2	7.13	49	63.0	7.25
6	105	66.9	8.1	92	67.0	8.06	32	66.8	8.24	83	65.5	7.5	94	64.8	7.56	48	64.5	7.70
7	98	68.6	8.5	91	68.4	8.48	34	68.2	8.59	82	67.1	7.9	93	66.4	7.94	50	66.4	8.07
8	102	69.8	8.8	94	70.0	8.81	32	69.6	8.94	81	68.4	8.2	90	67.8	8.26	46	67.8	8.36
9	105	70.9	9.1	89	71.0	9.07	32	70.7	9.12	76	69.7	8.4	89	69.1	8.54	43	69.1	8.60
10	90	72.1	9.4	93	72.1	9.32	35	71.7	9.28	78	70.7	8.7	82	70.3	8.72	39	70.6	8.81
11	86	73.2	9.4	85	73.4	9.58	34	73.2	9.51	76	71.8	8.8	86	71.4	8.93	44	71.6	9.03
12	115	74.4	9.8	90	74.4	9.75	34	74.4	9.74	94	73.1	9.1	81	72.7	9.12	40	72.9	9.20



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



厚生省は10年毎に横断的発育値を調査して発表しているが、同一個人の発育を追跡した縦断的発育値は殆んどみられない。そこで同一個人を追跡した縦断的発育値は、横断的発育値の厚生省値と差があるか検討した。また、母乳運動、離乳法の再検討、社会生活の向上、社会の高令化など子育ての環境や条件が著しく変わったこの10年間で、略同一の育児指導を毎月定期的に受けている乳児では、その発育に変化がみられたか検討した。